



発行  
天理教本愛大教会

〒453-0821  
名古屋市中村区大宮町1-60  
TEL (052) 461-4326  
MAIL mail@hon-ai.org  
〒632-0071  
奈良県天理市田井庄町19-1  
TEL (0743) 62-0378  
編集責任 広報部

### 3月神殿講話より

木村成人先生

立教187年3月月次祭の神殿講話には、本部長・木村成人先生が登壇された(写真)。講話の一部を要約して紹介する(全文は下記QRコードから動画でご覧ください)。

現在、本部祭事部の御用をつとめさせていただいております。およそ1万4千余りある教会ですが、お道の教えは、教会を通じて伸び広がっていくのが自然な姿だろうと思います。



そのためには、教会がより元気に、一層活発になることが大切です。その教会活動の最も大切なことは、おつとめであります。私たちの重要な信仰実践であり、ぢばの理につながる、たすけの源であります。おつとめは、「よろづたすけ」と教えられます。おふでさきに「このつとめなんの事やとをもっているよろづたすけのもよふばかりを」(二号9)「いま、てにない事ばかりゆいかけて

年間活動目標  
今日を陽気に。  
つながる、  
つなげる。

**YouTube**  
続きは  
本愛大教会  
公式チャンネルで  
3月神殿講話  
木村成人先生  
本部長  
  
4月30日まで公開  
※上記のQRコードを読み取って、ご覧ください。本愛誌の読者限定で公開している動画ですのでチャンネル内の動画一覧からはご覧いただけません。

よろづたすけのつとめをしへる」(六号29)とあります。さて、かぐらづとめ、陽気づとめ、たすけづとめ、かんろだいつとめとも呼ばれます。このうち「かぐらづとめ」は、つとめ人衆がお面を着けて勤めるために、そう呼ばれるものです。かぐらづとめに用いられる面は、これまでに13回制作されました。最初のものは、『稿本天理教祖伝』にもあるように教祖のお兄様にあたる前川杏助氏がつくられたものです。その後、主に教祖年祭のたびに制作されていますが、現在本部のおつとめで使われるものには2種類があります。一つは教祖80年祭の折、12回目に乾漆で制作されたもので、現在は月次祭のほか、をびやつとめ、はえでつとめで用いられています。特徴は月よみのみこ様の髪の毛が、ヤクという動物の赤い尾でできていることでしょう。もう一つは1月、4月、10月、そして元旦祭で使用されているもので、教祖100年祭に合わせ、同じく乾漆で13回目に制作されたものです。肌色の漆を用いていることに特徴があります。

入社祭	1日	午前10時
よふき会例会	2日	午前10時
月次祭	13日	午前10時
青年会例会	13日	午前10時
布教実修所	14日	午前10時
むつみ会例会	16日	午前10時
こども食堂MOGU	17日	午後5時
教祖誕生祭	18日	午前10時
天理教婦人会第106回総会	19日	午前9時30分
本部月次祭	26日	午前9時
女子青年例会	27日	午前10時
全教一斉ひのきしんデ-	29日	

4月のこよみ

# 現代に生かす

## 「用木の道」

文・安藤吉人



ご承知の通り、まもなく6月23日に本愛大教会の創立110周年記念祭をつとめさせていただきます。準備を進める中で、ある先生から「記念祭のときのおつとめ・十二下りのてをどりは、おつとめ奉仕者はもとより、参拝者も共に勇んで唱和することが肝心」と聞かせていただきました。ぜひそのように勇んだおつとめにできればと思っています。

### 昭和9年から始まった唱和



ところで、あまり知られていないことですが、おつとめの地歌は、昭和9年の教祖誕生祭まで参拝者が唱和することはお許しされませんでした。つまり、お

つとめは、地方の人のみが歌うものだったのです。なぜそれまでは唱和が許されなかったのかについては、調べてみたくては、調べてみたのですが明確な理由は見つけることができませんでした。もしご存知の人がいれば、ぜひご連絡いただきたいです。

「この祭典より、参拝者のみかぐら歌唱和許される」と天理教事典に記載されています。

とはいえ、なぜ参拝者が昭和9年から唱和するようになったのかは、史料に記録があります。この年は、教祖誕生祭が始まった年で、教祖50年祭と立教100年祭をそれぞれ2年後、3年後に控えた年でした。

この日、祭典に先立って講話した松村吉太郎先生は「本日此のお勤めを機として今後は毎月の月次祭の時も御参拝の皆さんは、その席上で座った儘お地を唱へて頂き度いのであります」と述べています。

当時の様子を想像するにつけ、間近に迫った本愛大教会の記念祭でも、ぜひそうした意気と熱を込めて、「上天」に届くように唱和していただきたいと感じます。

「大合唱となった」そうです。当時の『みちのとも』によれば、続くおつとめの様子は「大コーラスはさながら両年祭に対する本教徒の意気と熱とを表現するが如く、高く上天にも届けと(中略)大合唱となった」そうです。

「現在では(地方を)三人が『現在では(地方を)三人でしたはるの、二代真柱様が『わしは歌がへたやから三人です』と言わはつたから」と述べておられます。地方の人数は、教理的にはあまり重要な事柄ではないようです。

## 公式サイトと YouTube をご活用ください!

**大教会の行事日程を確認**

**本愛誌最新号とバックナンバーをダウンロード**

**その他お知らせ**


**祭典の様子をライブで視聴**

**大教会長の連載動画**


**神殿講話の限定配信**

**天理教 本愛 Q 検索**

**こんなに便利!**



**楽しく学ぶ!**



教理随想

言わん言えんの理を探る



みかぐらうた、  
の第二節に、  
このよのぢい  
とてんとをか  
たどりて ふ  
うふをこしら  
へきたるでな  
これハこのよ  
のはじめだし  
と教えられるよ  
うに、親神様が  
この世と人間を  
創造されるとき  
の基本的には夫  
婦を創ること  
でした。夫婦  
は「この世の  
始め出し」で  
あり、人間の  
基本です。か  
ら、お道の信  
仰では身上  
や事情の治まり  
を模索する  
時も、夫婦の  
在り方から思  
案を進めてい  
きます。

しかしこれは、ただ夫婦  
や家族が漠然と仲良く暮ら

すことを仰せられたのでは  
ありません。「ぢいとてん  
とをかたどりて」と示され  
る通り、「天と地」が一体  
となつて調和する姿こそ夫  
婦の原型だと教えられてい  
る。この点を思案しなくて  
はならないと思います。  
「元の理」のお話の中で、  
天は親神様の父性であり、  
男の特性を表したもので、ま  
た地は母性で、女の特性を  
表したものと教えられます。  
このことから悟れるのは、  
男の特性とは天のように広  
い心で地を抱きかかえ、水  
気と潤いを与え続けながら、  
いつも澄み切った青空のよ  
うな心で物事を判断する  
ということですが。

また女は、大地のような  
温かい情愛をもって万物を

育てる特性で、ひいてはど  
んな環境にも適応し調和し  
て、温かな心で夫に接し、  
子供を産み育てる徳分を親  
神様から頂戴していると思  
うことができます。  
さらにまた「元の理」に  
よれば、男の特性は水、女  
の特性は火であるとも明示  
されています。  
水は高い所から低い方へ  
低い方へと流れてあらゆる  
ものを動かし、枯れかけた  
草木でも生かして伸ばす働  
き。一方、火は下から上へ  
と燃え盛り、すべての物に  
光と熱を与え、水を下から  
温めては沸騰させて大きな  
エネルギーを産み出します。  
こうした働きがバランスよ  
く保たれている時は良いの  
ですが、いったんバランス

ですが、いったんバランス

言葉という道具

が崩れると、思いがけない  
事故や災難につながります。  
家庭内の不和や、社会で起  
きるさまざまなトラブルの  
根本原因は、これらの調和  
が崩れる姿にあります。し  
たがつて家庭や社会を円満  
に治めるためには、天地の  
調和と男女の心のあり方、  
すなわち火と水の特性を十  
分に自覚し、理解し合つて  
日々を送る努力が何より肝  
賢ということになります。

親神様の天地抱き合わせ  
の世界にあつて、人間が生  
きていく上でもう一つ欠か  
すことのできないご守護が  
風、すなわち大気・空気で  
す。これを身体機能で考え  
るならば、呼吸の働きであ  
り、呼吸することで親神様  
から与えられているのが言  
葉という機能です。夫婦間、  
家族間、また職場で毎日交  
わされる言葉。相手を立て  
る言葉、感謝の言葉という

風が家庭や社会に吹くなら  
ば、そこには親神様の素晴  
らしいご守護をいただける  
ことはいうまでもありませ  
んが、反対に嵐のように激  
しく吹雪のように冷たい言  
葉では、収穫できるはずの  
ものも吹き飛ばされたり、  
凍りついたりして芽を吹く  
ことはありません。  
お道で大事な御用の一つ  
である人材育成についても  
同様です。家庭内で天地の  
調和を心がけ、春のように  
温かい言葉に乗せて、信仰  
の喜びを若い人々にくり返  
し伝える丹精の誠があれば、  
陽気ぐらしの道は次代へ続  
いていくことでしょう。  
火水風のご守護にただ感  
謝するだけでなく、それぞ  
れの働きと特性を我が心の  
使い方に置き換えて、その  
調和を求めていく信仰姿勢  
が陽気ぐらしには不可欠で  
す。一人一人がそうした努  
力を積み重ねて日々を送つ  
ていきましょう。

【第 112 回】

家庭と社会が治まる元は  
火水風の調和する心に

立教187年  
4月29日



**全教一斉  
ひのきしんデー**

**お詫びと訂正**  
3月号4頁において、誤りがありましたのでお詫びして以下の通り訂正いたします。

1月のおさづけの理拝戴者  
誤 鈴木真美(本豊國)  
正 鈴木真実(本豊國)

教務部

2月の初席者  
加藤佑菜(本蟹江)

本昭和分教会四代会長夫人  
中島定子之霊の三十年祭  
本昭和分教会では2月11日午前11時より、四代会長夫人・中島定子之霊の三十年祭が、山本正太郎役員を祭主として同分教会で行われた。

# 本愛大教会 創立110周年記念祭

立教187年 2024年 6月23日(日) 執行

大 教 会 日 誌		令和6年2月25日～令和6年3月24日
<b>2月</b>		13日 月次祭 祭主・大教会長 扨者・桑子保、吉田克義 指図方・安藤正二郎 賛者・安井篤、佐藤幸一郎
26日	本部月次祭	
29日	常任役員会議◇役員会議	◇祭典講話一本部員・木村成人先生
<b>3月</b>		◇大教会長挨拶
1日	入社祭 祭主・大教会長 扨者・青木健裕、伊藤寿輝 指図方・都築隆道 賛者・坂倉敏男、鈴木真也	青年会例会
	春季霊祭	14日 布教実修所
	祭主・大教会長 扨者・筑紫英一、大橋進 指図方・安藤正二郎 賛者・津田豊郎、佐藤幸一郎	16日 むつみ会例会 女子青年例会
2日	よふき会例会	17日 こども食堂MOGU
12日	常任役員会議	20日 婦人会例会
		24日 少年会本愛団第54回総会